

三郷学で構想する まちづくりワークショップだより

第1号

平成22年
8月30日発行

- ◆〒341-8501 埼玉県三郷市花和田 648 番地 1
- ◆電話：048-930-7763 / FAX：048-953-1169
- ◆ホームページ：http://www.city.misato.lg.jp/
- ◆三郷市 企画総務部 企画調整課

「第1回三郷学で構想するまちづくりワークショップ」開催！

7月2日（金）から全6回にわたる市民参加のワークショップが開かれます。このワークショップは、公募に応じた市民の方と市職員が、三郷学の推進にあたり、講座のカリキュラムづくりや政策形成ハンドブックづくりについて検討するものです。



あいさつする木津雅晟市長



講演する土山希美枝先生

三郷学は、三郷にある資源（人・自然・地勢・産業・交通・歴史・教育・文化など）を再認識し、三郷の歩むべき方向性を常に考え行動へと移す学です。

また、三郷市自治基本条例や第4次三郷市総合計画の内容を実現するための学です。

はじめに、ワークショップに先だって市から「三郷学」についての概要説明があり、その後、龍谷大学法学部の土山希美枝准教授から「ひとつとつながる、力をひきだす ～三郷市で〈つなぎ・ひきだす〉まちづくり～」のテーマでお話がありました。集まった90人の皆さんは、興味深く耳を傾けていました。（講演の概要は裏面）

また、ワークショップでは、6グループに分かれ「自己紹介」や「三郷市がこんな街になったら良い！」などについて意見交換を行い、和気あいあいとした雰囲気参加者の交流が深まり、次回へのステップアップの場となりました。



ワークショップの様子



講演要旨（土山希美枝先生の講演内容を三郷市で取りまとめたもの）

- ・ 私達の日常生活は政策・制度のネットワークととても深く結びついています。政策や制度のネットワークがあって初めて暮らしが成り立ちます。そうすると〈政策・制度のネットワーク〉をいろいろな課題がある社会で、どのように維持し、運営し、改革していくかということが、私達にとっての永遠の課題になります。
- ・ 課題が、自分だけで解決出来ない時、周りの友達・地域で解決出来なかった時はどうするのか。この地域のみんなの課題だという時にはどうするか。その時、一番身近な政府は自治体です。市民が当事者で現場が生活で、市民の課題に一番身近な政府が自治体だとすれば、そこに課題を解決できるだけの権限と財源がなくてははいけません。これが自治や分権が必要な理由です。
- ・ 市民から見て、自分たちに必要不可欠な政策や制度を、自分たちにかわって行う機構、それが自治体です。
- ・ 政策全体で見ると市民だけではなく企業や団体も政策の担い手で、政策や制度の当事者でもあります。市民同士でも利害は対立します。市民の意見を聞くと言いますが、では誰の意見を聞くかというところで変わってくる訳です。一方、政策主体同士が連携や協力、あるいは緊張や競争をすると良いことがあるのではないかと思います。
- ・ なぜ対話や議論は必要なのか。まず、政策には予め分かっている正しい答えというのがありません。だからどうやって政策を提案したり決断するかということについてもめたりすることが多いです。でも予め分かっている正しい答えはないけれど決めなくてはなりません。また、人々は多様な対話や利害や価値観や立場を持ちます。それをこえてどのように連携、協力できる場所を見つけていくか。やはり対話や議論によるしかありません。
- ・ 対話と議論というのは自分と相手との関係をつなぎ、あなたと私は違うけれどもここは共有できるというところをひきだしていくものでもあります。
- ・ 地域の政府としての自治体というのは市民にとって欠かすことの出来ないものを、責任を持ってやる大事な主体です。一方で市民から預かる資源（税など）の範囲でしか出来ません。課題は無限にあるのですが資源は有限です。そうするとどの課題にどれだけ使うのですか、それをどうやって決めるのですか、ということが自治体にも、逆に市民にも問われています。

